



まらまら

第57号

今、ひとりひとりが...

「桜梅桃李」という言葉が好き!

それぞれ可憐に咲き使命を果たしながら人々の心を和ませてくれる花・花・花。

一人ひとりが今、居る場所で自分らしく生き、自分らしく「きらきら」と輝いていける21世紀でありたい…。

伊賀市男女共同参画都市宣言

わたし
私たちは
 せいべつ 性別にとらわれず たが 互いを人として とうと 尊び
 それぞれの個性と能力をいかせるまちをめざし
 しゃかい 社会のあらゆる分野で
 とも 共に参画し せきにん 責任を分かち合い
 のびやかで ころゆた 心豊かに暮らせるまちをめざし
 ゆた 豊かな自然と つちか 培われた文化を ぶんか 次代につなげ
 びょうどう 平等と へいわ 平和が ね 根づくまちをめざして
 ここに「男女共同参画都市」を宣言します。

へいせい 平成17年9月26日

い が し 伊賀市

編集・発行

伊賀市人権生活環境部人権政策課
〒518-0873 三重県伊賀市上野丸之内 500 番地
Tel(0595)22-9632 FAX(0595)22-9666

編集

伊賀市男女共同参画センター情報紙「きらきら」
編集スタッフ 岡 久美子・竹山 佐代子
的場 裕子・三山 佳代子

(令和2年8月1日 発行)

昨年11月、男女共同参画に関する意識調査を実施しました。その中で、法律などの認知度などについて質問したところ、「伊賀市男女共同参画都市宣言」を「知らない」と答えた方の割合が最も高く、47.6%とおおよそ半分近くの方が、知らないという結果が出ました。

そこで、少しでも多くの方に知っていただきたく、この情報紙「きらきら」の表紙に掲載させていただきました。

○伊賀市男女共同参画都市宣言

伊賀市は女性と男性が互いに人権を尊重しつつあらゆる分野に共に参画して責任を分かち合う「男女共同参画社会」の実現をめざし「男女共同参画都市宣言」をしました。

ぜひこの機会に、伊賀市が「男女共同参画都市宣言」をしていること、またその内容についても知っていただきたいと思います。

○伊賀市男女共同参画推進条例

「伊賀市男女共同参画都市宣言」の次に認知度が低かったのが「伊賀市男女共同参画推進条例」です。「知らない」と答えた方の割合は、45.2%でした。「伊賀市男女共同参画推進条例」とは、男女が性別にかかわらず個人として尊重され、いきいきと生きられる「男女共同参画社会」の実現をめざし、平成16年11月1日に施行したものです。

「伊賀市男女共同参画推進条例」の内容につきましては、下記のQRコードを読み取っていただくか、伊賀市ホームページにアクセスし、ご確認ください。



<https://www.city.iga.lg.jp/0000000566.html>

(男女共同参画係)

伊賀市男女共同参画ネットワーク会議
(いきいきネット) 会員紹介



伊賀人権擁護委員協議会

◇人権擁護委員はあなたの街の相談パートナーです◇



伊賀人権擁護委員協議会には28名（伊賀市17名・名張市11名）の人権擁護委員がいます。事務局は津地方法務局伊賀支局内にあり、人権相談や啓発活動に力を入れています。

人権相談は伊賀市局での常設のほかに、市内6か所の市の施設でも行っています。また、「子どもの人権110番」「女性の人権ホットライン」は津地方法務局に常設されています。

毎年保育園（所）や小学校で人権教室を実施し、いのちの大切さや、自分も人も大切にすることを共に学びあっています。同行するキャラクター人形の「人KEN まもる君・あゆみちゃん」と触れ合う子どもたちの笑顔がとても印象的です。そのほか、「人権の花運動」や「人権作文コンクール」、市主催の「ひゅーまんフェスタ」、さらに「伊賀FCくノー三重」の啓発試合など、地域の行事に参画することも増えてきました。

人権相談や啓発活動を通して、私たちはみんなが幸せに暮らせるようお手伝いをしています。新型コロナウイルス感染症に関わる人権侵害も出てきています。不安や心配を一人で抱え込んだり、悩まないでぜひ相談してください。（相談電話 0595-21-3677）

男女共同参画に関する意識調査から (2019年 11月実施)



★「男は仕事、女は家庭・育児・介護」という考え方に対して、あなたはどうかを質問しました。

※対象：伊賀市全域に在住の20歳以上の男女2,000人（外国籍住民を含む）

全体では、「そう思う・どちらかといえばそう思う」と性別役割分担に肯定的な人は44.5%、「そう思わない・どちらかといえばそう思わない」と性別役割分担に否定的な人は54.8%となっています。

性別で見ると、「どちらかといえばそう思う」の割合が、女性36.6%、男性39.0%と最も高く、次いで「そう思わない」の割合が高くなっています。また、女性・男性とも「そう思わない・どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合が5割を超えています。

前回調査と比較すると、「そう思わない・どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合について、2019年調査が54.8%と2014年調査47.1%より7.7ポイント高くなっており、性別役割分担に否定的な人の割合が高くなっています。

